大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310103439	設置等組織名	建築デザイン学部（建築デザイン学科）
大学名	日本女子大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京	事業計画名	建築デザイン学部新設による、技術力を有する高度女性人材の育成

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	令和5年4月　建築デザイン学部設置届出	令和5年4月　建築デザイン学部設置届出	令和5年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	令和6年4月　建築デザイン学部開設 3-① 令和6年4月～　学部棟新設検討と並行した教育研究戦略を踏まえた設備等検討 3-②　　6月～　初年度入試結果を踏まえた広報戦略の検討及び広報活動の実施【戦略深化】 3-③　　学部入学生の年次進行に対応し、教育環境を順次整備(随時)	令和6年4月　建築デザイン学部開設 3-① 令和6年4月～　学部棟新設検討と並行した教育研究戦略を踏まえた設備等検討 3-②　　6月～　初年度入試結果を踏まえた広報戦略の検討及び広報活動の実施【戦略深化】 3-③　　学部入学生の年次進行に対応し、教育環境を順次整備(随時)	令和6年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	3-④ 令和7年4月～　カリキュラム・入試・広報戦略等年次振り返りと改善実施【戦略深化】 3-⑤　　学部教育内容に関する業界団体等との意見交換会等の検討・実施(随時)	3-④ 令和7年4月～　カリキュラム・入試・広報戦略等年次振り返りと改善実施【戦略深化】 3-⑤　　学部教育内容に関する業界団体等との意見交換会等の検討・実施(随時)	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和8年度			令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度			令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和5年4月　建築デザイン学部建築デザイン学科　学部の設置届出予定	令和5年4月26日　建築デザイン学部建築デザイン学科　学部の設置届出	
定員減又は 学部等の廃止	令和5年4月　家政学部住居学科学生募集停止の報告予定（入学定員92人、工学関係・家政関係） 令和5年4月　文学部日本文学科8人減員に係る届出予定（入学定員126人、文学関係）	令和5年4月　家政学部住居学科学生募集停止の報告（入学定員92人、工学関係・家政関係） 令和5年4月　文学部日本文学科8人減員に係る届出（入学定員126人、文学関係）	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	日本女子大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右のⅤの項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右のⅯの項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
※文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
■ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業等と連携した特長的なPBL科目として、専門科目3年次配当「建築と社会」がある。①NPO等（卒業生の引バラ環境教育NPO、施設設計の専門家が連携）とエチオピアの女性の就業支援課題解決、②自治体等（神栖市役所、住民、設計・施工者、研究者が連携）と茨城県神栖市のかみす防災アリーナの課題解決等の取組を、基礎となる実践学部住居学科学科において既に実施しており、新学部でもPBL実習を実施し、内容のさらなる深化を図る。なお、本科目は社会連携・地域貢献の側面も持ち合わせており、学生、連携先双方でwin-winの取組である。海外大学とは、台湾・遠甲大学建築専業学院との交換留学プログラム「Open Loop Program」や台湾・淡江大学等との「国際ハウジングワークショップ」「建築総合演習 」として単位認定） 等、連携プログラムの実績があり、新学部も継続・発展させて国際交流の取組を進める。	計画どおり学科専門科目3年次配当科目として発展科目群に「建築と社会」を配置し、届出を完了している。 建築デザイン学部では3年次配当科目であり、今年度が最初の開講年度となるため、基礎となる家政学部住居学科における同科目の内容を深化・充実させつつ、今年度の建築デザイン学部における開講・実施につなげる。 また、建築デザイン学部における実務家教員、企業等を通じた実践的、国際関係プログラム等の令和7年度実績は以下のとおり。 ○建築デザイン学部主体で運用する寄附講座(英語による講義)等を通じた、海外短期研修や留学導入科目、企業連携PBLの実施 ①「持続可能な社会と建築デザイン」(一財)日本建築センター さらに、同センター主催の海外研修プログラム（インドネシア・国際セミナー運営）へ本学部学生が4名参加し、企業連携を基にした国際的・実践的な学修プログラムの拡充につなげた。 ②「Self-Building Public」(株)限研吾建築都市設計事務所 令和8年度からは建築デザイン学部学科科目に置き、さらに専門性を向上させる。 ③令和7年度、新たに武蔵コーポレーション(株)と協定を締結 令和8年度から、土地・建築の有効活用、建物保全や経営・会計・マーケティングを学ぶ、実践的な授業(「企業マネジメント入門」)展開に加え、既存物件のリノベーション・コンペなど実践的な課題に学生が取り組む課外プロジェクトも企画予定。 ○実践的ワークショップやイベント（多くの実務者教員を有する学部である特色を活かしたプログラムを多く実施し、実社会との接続を意識した教育を実施） ①「千人茶会 茶室アイデアコンペティション」：本学部学生が製作し、本学部特別招聘教員である限研吾教授による審査で選出された上位作品の展示企画等。スピンオフ企画も実施し、限教授がこれまで手がけてきた茶室デザインについての講演等も実施。 ②「百年館高層棟エントランス デザインアイデアコンペティション」：本学部特別招聘教員である妹島和世教授等による審査で、目白キャンパス内の百年館高層棟エントランスをリニューアル。実際の家具制作にも携わった山口木材工芸(株)の山口千絵子代表取締役社長とともに、本学学生が約1年をかけて試作と検討を重ねながら授業の具体化を進めた。 ③「照明デザインに関する特別ワークショップ」：本学部特別招聘教授である東利恵教授が中心となって進めている、椋深館ワークショップA教室のリニューアルに際し、ICE都市環境照明研究所所長の武石正昌氏に協力をいただき、2週にわたって実施。 ④「たたら製鉄イベント」（本学部江尻憲泰教授及び文学部を中心に実施）：目白キャンパスにおいて、ものづくり教育たたら連絡会の協力のもと、日本古来の製鉄技術である「たたら製鉄」を学修・研究するイベントを実施。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
□ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
□ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
・⑫で記載したジェンダー学生(女性)の受け入れは、女子大学として、多様な入学者受け入れの特徴的な取り組みであると考えている。 ・入学者選抜においては、基礎となる学部学科から新学部に改組するにあたり、2025（令和7）年度入試から大学入学共通テスト（5科目型）を新規導入することとし、志願者の選択の幅を広げた。 ・女子大学に対する逆風の風潮がある中、本学は継続的な改革を推進しており、学部改組を積極的に進めている。令和5年度は国際文化学部、令和6年度は本学部（建築デザイン学部）を設置し、続く令和7年度には食科学部（仮称）の設置を構想しており、その後も継続的に学部改組を機とした教育改革を進め、優秀かつ多様な女子学生の獲得・輩出を進める。 ・海外協定校開拓を推進しており、交換留学生をはじめ、留学生の受入強化をさらに進める(令和6年度新規:タイ・シラパコーン大学)。	・ジェンダー学生（女性）の受け入れについて、募集要項及び大学Webサイト等で明示・公表し、積極的な取組を進めている。 ・建築デザイン学部において、令和7年度入試から「大学入学共通テスト（5科目型）」の導入に加え、令和8年度入試から「公募制学校推薦型選抜」導入や「一般選抜複数日受験実施」による入試機会を増やした。これらの取組により、建築デザイン学部は令和8年度入試で880名（前年度661名）の志願者を得た。また、アドミッションポリシーのさらなる実質化のため、総合型選抜において、学力のみならず、芸術面（作画・画力）等さらに多面的に評価できるよう第一次選考の基準等を工夫するなど、多様な人材確保の取組を進めている。 ・令和8年度の「文学部2学科・文学研究科2専攻」名称変更、令和9年度の「経済学部(仮称)」設置予定に加え、令和10年度の「人間科学部(仮称)」及び「ファッションデザイン学部(仮称)」設置予定を公表（令和7年10月9日・11月17日プレスリリース、同年2月12日・3月11日特設Webサイト公開）した。 ・建築デザイン学部を中心とした協定として、令和7年度は新たに「ホーチミン市建築大学」と各種協定を締結し、毎年度着実に協定校を増加させている。また建築デザイン学部で6名の交換留学生を受け入れ、本学理工系学部におけるグローバル化をけん引している。 【受入実績（令和7年度）】 《台湾》逢甲大学(3名) ／ 淡江大学(1名) 《韓国》梨花女子大学(1名) ／ 誠信女子大学(1名) ※接続する建築デザイン研究科ではイタリア ミラノ工科大(受入2名、派遣1名)、ベルギー ヨアリュッセル自由大(派遣2名)	

大学名	日本女子大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	建築デザイン学部建築デザイン学科（工学関係･家政関係）

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定･届出	開設																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人		100																	
		編入学定員	人		-																	
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	100	100	100															
		入学者数	人	-	97	111	101															
		女子学生数	人	-	97	111	101															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	100	100	100															
		入学者数(B)	人	-	97	111	101															
		女子学生数	人	-	97	111	101															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	0.97	1.11	1.01															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	100	200	300															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	97	206	303															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	0.97	1.03	1.01															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	5	12	19															
		授業科目の単位数	単位	-	8	28	41															

大学名	日本女子大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	281	289	289	289															
		入学者数	人	283	276	296	324															
		女子学生数	人	283	276	296	324															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	2	0	1															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	281	289	289	289															
		入学者数(B)	人	283	276	296	324															
		女子学生数	人	283	276	296	324															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	2	0	1															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	0.96	1.02	1.12															
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,124	1,132	1,140	1,148															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	1,157	1,158	1,152	1,189															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.03	1.02	1.01	1.04															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	263	288	276																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	30	35	42	49															
		授業科目の単位数	単位	39	47	67	80															

大学名	日本女子大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1498	1498	1498	1498															
		入学者数	人	1500	1555	1526	1585															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,498	1,498	1,498	1,498															
		入学者数(B)	人	1,500	1,555	1,526	1,585															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.04	1.02	1.06															
	収容定員等	収容定員(C)	人	5992	5992	5992	5992															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	6197	6214	6194	6236															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.03	1.04	1.03	1.04															

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	H30年度 申請−5年	R1年度 申請−４年	R2年度 申請−3年	R3年度 申請−2年	R4年度 申請−1年	R5年度 選定	R6年度 開設	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
外部資金獲得額	千円	179,161	258,982	238,210	122,974	157,352	175,559	279,372	209,750											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額	千円	191,574
本事業による助成金の額(F)	千円	39,620
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	192,565

特記事項